

## 保育者の新しいノオト (2)

S K 生

### (1)

「あなたは、けさの新聞を見て來られたか。園長さんの問ひである。わたくしたちは幼児にその日その日のニュースを話さなければならぬのだらうか。さうでもあるまい。又このごろの新聞には切り抜いて子どもたちに見せてあげたいやうな。きれいな寫眞もない。なぜ新聞々々といはれるのかしら。」「けさも早くうちを出まして。それに此の頃新聞の配達がおそいものですから……」。さうお答へしたら。朝は忙しくて無理ですかね。だつたら。夜でも、その日のうちに必ずお讀みなさいよ……、ねむくつてもね。」「園長さんはさういつてお笑ひになつた。

○「新聞をそんなにきつと讀まなければ、いけませんのですか?」とお尋ねしたら、「さうですよ、毎日新しくなつてゆく日本で誰れだつて新聞を、一日でも見ずにゐられませんよ。教育者は尙更じやありませんか。」「と、こんどは眞面目な顔で言はれた。「ものがきちんときまつたまゝに行はれてゐる時代なら兎に角、今日のやうに、すべてのことが、新しく變つたり動いたりしてゐる時、新聞を讀まなくては、新しい日本も世界も分らんといふものでせう。それも、知識としてなら少し位おくれて知つてもいいだらうが、新しい世、新しい「時代の感覺」は毎日々々養はれなくてはならない。新感覺のない教育者に新しい教育が出來ますかね……」。と言つて、たとへば、と擧げられた。新家族法にしても、新勞働法にしても、さういはれて見ると頓と知らない。まるでうつかりしてゐる。これではと、臆らず臆らず頭をそつとかいた。

### (2)

○こないだブランコの取りあひがあつた。それは珍らしいことでもないが、いつものやうに暫くだまつて見てゐると、一人の男の子が「民主主義だよ」と言つたのには驚かされた。つまり、公平にとか、一人占めをしないやうにとか、あたりまへの意味をいつてゐるのであるが、民主主義といふむつかしい言葉が幼児の口から出たので、びつくりしたのである。むつかしい、といふよりも「おとな語」である。おとなの中にも意味が分らず、「おとな語」が使はれてゐる今日だけれども、こんな「おとな語」を幼児には使はせたくないと思ふ。本場のアメリカだつて、幼児が、democraticなんて言葉を使つたらおかしい。此の子は、多分家庭で、親や兄たちの使つてゐるのを聞き覺えたのであらうが、もし、幼稚園で、わたし達の誰れかが子供の前で、こんな「おとな語」を使つて聞かせたのだとしたら、どういふものであらうか。民主的には育てたい。大いに民主主義の行動をさせたい。しかし、民主主義といふ言葉なんか教へたくない。「皆さん、民主主義にしませうね。」「そんなことをしては民主的でない……なんて。

### (3)

○なんといつていゝか、少し落ちついたといふ譯か、保育室に藝術的な額が、庭に美しい花壇がほしくなつた。わたくし達もさうだから、幼児達もきつとそうに相違ない。「先生いつまで殺風景なの」そんなことは言はないけれど。言はないからなほ……。